

# 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター中期目標

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター(以下「センター」という。)の業務運営に関する目標(以下「中期目標」という。)を次のとおり定める。

平成19年(2007年)12月6日

滋賀県琵琶湖環境部長

## 1 基本方針

センターは、次の三つの基本的課題を踏まえ、政策課題への対応を目的として琵琶湖と滋賀県の環境について、継続的なモニタリングによる観察や監視を行い、定期的報告および新たな課題の発見に努めるとともに、環境情報や知見を集約し、総合解析することにより、政策提案や課題提起、施策効果の科学的な検証を行う。

また、情報の収集・提供・管理、研究交流を進めるとともに、モニタリングや総合解析の成果の発信に努める。

### (1) 基本的課題

#### ア. 持続可能な滋賀社会の構築

地球温暖化、資源の枯渇、琵琶湖の再生等の課題に対応していくために、長期的視点を持って、低炭素化社会、資源循環型社会、自然共生型社会、といった側面を持つ持続可能な滋賀社会を構築する。

#### イ. 琵琶湖と流域の水質・生態系の保全・再生

琵琶湖における、北湖のCOD上昇、水草の大量繁茂、外来種の増加、北湖深層部の低酸素化等の問題に対処し、琵琶湖と流域の水質・生態系の総合的な保全・再生を図る。

#### ウ. 環境リスク低減のための実態把握

生活の利便化、多様化等に伴い、化学物質の使用は種類、量共に増加傾向にあることから、健全な環境を保全するため、化学物質の大気環境や水・土壌環境への影響を把握する。

## 2 目標の対象期間

目標の対象期間は、平成20年度から平成22年度までの3年間とする。

## 3 モニタリング、総合解析の推進

### (1) モニタリングの推進

琵琶湖と滋賀県の環境に関わる現状把握および課題解決に向けた検討の基礎となる情報

等を得るため、発生源の監視、環境基準適合状況の評価、その他環境の状況の把握、施策効果の検証データの収集等を目的として、総合的にモニタリングを推進する。

## (2) モニタリングにかかる政策課題

### ア. 分析評価モニタリング

発生源の監視や環境基準適合状況の評価など、分析結果の評価を主目的とするモニタリングを分析評価モニタリングと位置づけ、次に示す政策課題に対応するものとする。

#### ・政策課題 「水・土壌環境のモニタリング」

水質汚濁発生源の監視や水質汚濁事故時の対応、および西の湖・余呉湖等の特定地域の課題に対応するとともに、環境基準の適合状況进行评估する。

#### ・政策課題 「生物環境のモニタリング」

アオコ発生の原因となるプランクトン等の監視、および大腸菌群等の環境基準の適合状況进行评估する。

#### ・政策課題 「大気環境のモニタリング」

大気環境の発生源の監視およびアスベスト等の特定公害を監視するとともに、環境基準の適合状況进行评估する。

#### ・政策課題 「化学環境のモニタリング」

化学物質発生源の監視を行うとともに、琵琶湖における残留有機汚染物質の把握および環境基準の適合状況进行评估する。

### イ. 解析モニタリング

分析評価モニタリング等により、新たに発見された課題の解明のため、さらに詳細なデータ収集や調査を目的としたモニタリングを解析モニタリングと位置づけ、次に示す政策課題に対応するものとする。

#### ・政策課題 「琵琶湖の低酸素化の実態解明」

琵琶湖北湖深層部において低酸素化の進行が懸念されていることから、その実態および水質や生態系への影響を把握する。

#### ・政策課題 「水環境モニタリングの最適化」

琵琶湖の水環境を総合的に保全していくため、最も効果的・効率的なモニタリングを実施する手法を検討する。

#### ・政策課題 「琵琶湖におけるプランクトン等による水質に与える影響の評価」

琵琶湖の水質評価については、生態系の状況も含めた総合的な評価が求められていることから、プランクトンの状況を把握し、その水質への影響进行评估する。

#### ・政策課題 「大気環境の評価方法の適正化」

滋賀県における社会・経済状況の変化や、光化学スモッグ注意報の発令回数が漸増傾向にある等の状況を踏まえ、大気環境の現状进行评估するとともに、適正な評価方法を

検討する。

### (3) 総合解析の推進

行政への政策提案、課題提起や施策検証を目的として、政策課題に対応する研究を行うことやモニタリング等の成果をモデルに活用すること等により、総合的に解析することを総合解析と位置づけ、これを推進する。

### (4) 総合解析にかかる政策課題

総合解析は、次に示す政策課題について対応することとする。

#### ・政策課題 「琵琶湖の多様な価値の総合的な保全」

琵琶湖の多様な価値を総合的に保全するため、琵琶湖流域統合管理モデルの精度を高めるとともに、具体的な目標を設定する。

#### ・政策課題 「面源負荷の管理」

琵琶湖の水質を保全していくためには、効果的な面源負荷対策を実施する必要があるため、面源負荷の琵琶湖水質への影響を明らかにするとともに、これまでの面源負荷対策の効果を検証することにより、今後重点を置くべき発生源管理手法等を明らかにする。

#### ・政策課題 「水質汚濁メカニズムの解明」

琵琶湖の水質保全のために多くの対策を実施してきたにもかかわらず、環境基準項目のCODが上昇傾向にあることから、水質汚濁メカニズムを解明する。

#### ・政策課題 「内部負荷の管理」

集水域での汚濁負荷削減対策が進んだにもかかわらず、琵琶湖の水質の改善効果が現れない原因として、湖内底質への栄養塩の蓄積等による内部負荷が一因と考えられることから、内部負荷の削減につながる水質保全対策を検討する。

#### ・政策課題 「湖岸生態系の保全・修復および管理」

琵琶湖では内湖の減少、湖岸堤の建設等、湖岸環境が変化し、また、在来種の減少・外来種の増加、水草の大量繁茂等、湖岸生態系に著しい劣化が生じていることから、望ましい湖岸生態系のあり方を明らかにし、その保全・修復および管理手法を検討する。

#### ・政策課題 「持続可能な滋賀モデルの構築」

滋賀県における持続可能な社会のビジョンの実現を図るための有効な政策手段について、制度的、経済的手段を検討し、期待される効果や実行に移すための課題を整理する。

## 4. 情報の収集・提供・管理

琵琶湖と滋賀県の環境に関する総合的な環境情報センターとして、図書・文献の収集・管理や環境情報システムの管理・運用等を通じて、環境情報の発信、試験研究の支援を図る。

## 5. 研究交流の推進等

国内外の試験研究機関や大学等との共同研究を推進するとともに、研究交流や研究者の受入等を推進する。

また、モニタリングや総合解析の実施にあたっては、政策課題に寄与する外部資金等の確保に努めるものとする。

## 6. モニタリング・総合解析の成果の発信

モニタリングや総合解析の成果等について、刊行物やホームページによる広報発信を行うとともに、セミナーや講習会の実施や指導助言を行うことにより、地域の環境保全活動に貢献する。

また、関連する学会や専門誌等での研究発表を通じて、学術的・専門的な情報発信に努める。

## 7. 進行管理

モニタリングや総合解析をはじめとする業務運営にあたっては、企画運営会議やその幹事会等により十分に行政との協議・調整を行うほか、外部の専門家・有識者等による評議員会により科学的見地等から評価・助言等を得るものとする。

企画運営会議や評議員会等の運用を通じて、業務の計画、実行、点検・評価、改善・見直し等の適正な進行管理を行い、効率的、効果的な業務の実施に努める。

### (1) 計画の推進

業務の運営にあたっては、中期目標を踏まえた中期計画を定め、これを基本として業務を実施することとする。また、年度ごとに中期計画を基にして年度計画を立て、政策課題や施策検証における、行政ニーズ、社会ニーズの動向を的確に踏まえて必要に応じた変更、修正等も加えて業務を実施するものとする。

### (2) 評価の実施

中期計画に対する達成度について、センター内および外部専門家・有識者による評価を実施し、その結果を公表するとともに、試験研究計画等に適切に反映する。